

教宣 せぶん

地方も頑張るポスティング

静岡 4名 3000枚

**共栄支部・分会委員長「私の
マンションも入ってました」**

2月28日の4回目を数える「外勤支部 全国一斉ポスティング」、今回は静岡でおこないました。3月1日に焼津市で、被災から55年を迎える「ビキニデー」が開催され、この日におこなわれる「損保平和交流会」ともども参加するため、静岡に来たためです。同じく大阪地協を代表してやって来た組合員と、地元組合員2名の4名で、午後1時30分から4時まで、合計3000枚をポスティングしました。

静岡駅周辺はとても人通りが多く、驚きました。「世界同時不況」の影響を受けている地方都市が多い中であって、目を疑うほど活況を呈していました。歩行者天国になっている駅前の大通りは、道いっばいに老若男女が行き交い、パフォーマンスを行う大道芸人を常時20人くらいが取り囲んでいました。地元の仲間に話を聞くと、「同じ静岡でも製造業が中心の浜松市などはまともに不況の影響を受け沈みきっているが、官公庁が多く、観光都市の静岡市はそれほど影響を受けていない。営業テリトリーである浜松は派遣社員ばかりか、正社員のリストラもすすめられおり、100万・200万の年収減は当たり前の世界。お客さんのラーメン屋さんも600円のラーメンを400円に値下げしても客足が増えず、火災保険料が払えない状態。市民は街に出て行く気力もない」とのことでした。同じ県内でも、不景気の「温度差」が全然違うことを痛感してのポスティングとなりました。

2名ずつ静岡支店基点組と静岡駅基点組に分かれてポスティングをおこない

ました。支店組の私たちはまず静岡支店へのポスティングから始めました。各地の出先課所を基点にポスティングをおこなってきて思うことですが、当社の課所の近くには必ず三井住友社と損保ジャパン社がありました。他の損保社もあるのですが離れたところに位置し、この三社だけは各地で損保社群を構成していました。今回の静岡市でもこの「法則」があてはまったわけですが、まるで「三社連合」を形成しているようです。もちろん、この三社は激しいトップシェア争いを演じてきたライバル社に違いはないのですが、この配置は、護送船団時代から大手社としての「ブランド意識」を持ち、後続の他社の成長や勢力拡大を許させない「特別区」を意味するのではないかと感じました。

この日は午後 5 時から損保平和交流会があり、明日のビキニデーに際し、本部浦上書記長のお話を聞きました。その後開かれた懇親会では他支部の参加者と交流をはかりましたが、同席した共栄支部の分会委員長が「ぼくのマンションにも、ビラ、入っていました」と話してくれ、この日のポスティングの威力を実感しました。おそらく多くの損保関係者が、この静岡市内の繁華街の中に居を構えていると推察しますが、この日の行動でも、多くの損保業界に関連のある方が、「判決」や「命令」に従わないトップカンパニーの不当な行為が書かれたビラを目にしたと思います。

運動は間違いなく広まっています。その実感を胸に、さらに運動をすすめましょう。